

(2 3) に ら

防除法 病害虫名	防除のポイント	薬 剤 防 除		
		防除時期	RACコード	薬 剤
1 葉腐病 <i>Rhizoctonia solani</i>	1. 排水を良好にする。	発 病 初 期	U18	バ リ ダ シ ン 液 剤 5
2 白斑葉枯病 <i>Botrytis byssoides</i> <i>B. cinerea</i> <i>B. squamosa</i>	1. ハウス栽培では近紫外線除去フィルムでハウスを被覆する。 2. 換気を図り、多湿にならないようにする。 〈薬剤使用の特記事項〉 1. ストロビーフロアブルは浸透性を高める効果のある展着剤は薬害のおそれがあるので避ける。	発病前から 発病初期	BM2 BM2 BM2 BM2	ア グ ロ ケ ア 水 和 剤 エ コ シ ョ ッ ト セ レ ナ ー デ 水 和 剤 ボ ト ピ カ 水 和 剤
		発 病 初 期	11 11 12 19	アミスター20フロアブル ストロビーフロアブル セイビアーフロアブル20 ポリオキシシンAL水溶剤
		播 種 時	1	ト ッ プ ジ ン M 水 和 剤
		発 病 初 期	3 11	ト リ フ ミ ン 水 和 剤 ス ト ロ ビ ー フ ロ ア ブ ル
3 さび病 <i>Puccinia allii</i>	1. 草勢を良好に保ち、肥料不足や窒素過多を避ける。 2. 罹病株は抜き取り処分する。 〈薬剤使用の特記事項〉 1. ストロビーフロアブルは浸透性を高める効果のある展着剤は薬害のおそれがあるので避ける。	発 病 初 期	3 11	ト リ フ ミ ン 水 和 剤 ス ト ロ ビ ー フ ロ ア ブ ル
4 株腐細菌病 <i>Pseudomonas</i> sp.	1. 施設栽培では多湿にならないよう、伸長期には換気を十分に行う。 2. 露地栽培では萌芽期に発生しやすいので、春先には排水に注意する。 3. 発病株は最後に収穫するか、刃物を次亜塩素酸ナトリウム0.5%液で消毒する。 4. 捨て刈りの葉等は畑にそのまま放置せず、外に出して処分する。	発 病 初 期	M1	Z ボ ル ド ー
5 紅色根腐病 <i>Pyrenochaeta terrestris</i>	1. 連作を避ける。 〈薬剤使用の特記事項〉 1. 消毒方法はⅢ－14. 土壌病害虫の防除の項参照。	定 植 前	－ －	ガ ス タ ー ド 微 粒 剤 バ ス ア ミ ド 微 粒 剤
6 白絹病 <i>Sclerotium rolfsii</i>	1. 連作を避ける。 2. 被害茎葉は圃場外で処分する。 3. 夏期に湛水可能な圃場は、高温時に20日以上湛水すると、菌核が死滅するので有効である。 4. 輪作をする場合は、ナス科以外にウリ科、アブラナ科、マメ科などを犯す（多犯性）ので、作物選定に注意する。 5. 発病圃場では籾殻は使用しない。	土 寄 せ 時	29	フ ロ ン サ イ ド 粉 剤
7 アブラムシ類 (萎縮病)	1. 育苗期に防虫ネット（1mm目合以下）で被覆する。 2. 4～6月、8～9月にシルバテープをはる。 3. 被害株は抜き取り更新する。 〈薬剤使用の特記事項〉 1. 病原体はアブラムシ類及び汁液で伝播される。	発 生 初 期	4A 4A 4A 4A	モ ス ピ ラ ン 顆 粒 水 溶 剤 ダ ン ト ツ 水 溶 剤 ア ル バ リ ン 顆 粒 水 溶 剤 ス タ ー ク ル 顆 粒 水 溶 剤
8 ネダニ類	1. 適正な施肥を行う。 2. 酸性土壌を矯正する。 3. 圃場内の残さや雑草を取り除く。 4. 湛水可能な圃場であれば、1か月以上、湛水処理する。	定 植 時	1B	ト ク チ オ ン 細 粒 剤 F
9 ネギアザミウマ	1. 施設栽培では、ハウス開口部に防虫ネット（1mm目合以下）をはり、飛び込みを軽減する。 〈薬剤使用の特記事項〉 1. アグロスリン乳剤はネギコガ、ハモグリバエ類、ヨトウムシ類にも登録がある。	定 植 時	4A	ア ド マ イ ヤ ー 1 粒 剤
		発 生 初 期	3A 4A 4A 4A 4A 5 5 21A	ア グ ロ ス リ ン 乳 剤 ア ク タ ラ 顆 粒 水 溶 剤 ダ ン ト ツ 水 溶 剤 ア ル バ リ ン 顆 粒 水 溶 剤 ス タ ー ク ル 顆 粒 水 溶 剤 ス ピ ノ エ ー ス 顆 粒 水 和 剤 デ イ ア ナ S C ハ チ ハ チ 乳 剤
		生 育 期 (発 生 初 期)	4A 4A	ア ル バ リ ン 顆 粒 水 溶 剤 ス タ ー ク ル 顆 粒 水 溶 剤

農薬の使用方法や注意事項はラベルで確認する